

## 活動紹介講座Ⅱ

### いのち咲かせたい

日時：平成28年9月22日（木・祝）10：30～12：23

場所：瓦町FLAG8階 大会議室

主催：高松市市民活動センター

内容：

#### 10:30～10:35 市民活動推進室 いいくら

- ・市民団体を紹介させていただき活動の一環として開催。

#### ○講師紹介

- ・北海道大学医学部付属助産婦学校卒業。N T T高松病院などで30年以上助産師として活躍。
- ・いのちを語り続ける
- ・「その人らしさ」を基本理念とする命の応援者として、出産・子育て支援・高齢者支援の三本柱として「いのちの応援舎」を開所。出産から高齢者までの命を応援する活動。
- ・講演活動に専念するため、「N P Oいのちの応援舎」の理事長を退き、「いのち咲かせたい」を設立、講演を全国で。
- ・NHKテレビや様々なところで取り上げられ、数多くの表彰を受賞。
- ・命の現場での経験、有意義な時間となることを。
- ・市民活動センターを開設、来月で1年となる。市民活動センターの事業や市民活動団体の活動に理解を。

#### 10:35～12:23 いのち咲かせたい

○講師：N P O法人命の応援舎・元理事長

#### ○はじめに

- ・昨日は高知県人会でお酒も飲みました。歳をとって、誰か思いだせん人が出てきた。自己紹介も要る。
- ・屋島からバイクで来ようと思ったが、雨だったので電車に変更。
- ・渦元駅にあった屋島病院が移転する。私の思い出は渦元駅の屋島病院。

#### ○プロフィール

- ・私は、私の紹介はせんでもいいとお願いしている。時間がもったいない。だって、私の生い立ちこそが、みなさんに伝えたいこと。
- ・高知の生まれ、5歳の時に父が病死。その場にいたのが看護師さん。私は看護師さんになりたいと思った。
- ・家が貧乏だったので、三食ついて勉強が出来るということで、高知の看護学校へ。
- ・命が生まれる：産声をあげて産まれる赤ちゃんを取り上げる助産師さん、私の仕事はこれだ。
- ・遠くへ生きたい：遠くへ行きたかったので北海道の助産師学校、三食付きの全寮制の学校。
- ・東京へ行きたい：東京の病院 日本で一番赤ちゃんが産まれるところ。
- ・夫は茨城県の日立製作所の職員。夫の転勤で香川県高松へ。
- ・N T T高松病院で20年以上勤務。

#### ○性教育が必要

- ・子どもたちは、夏休み明けにツケがまわってくる。人工妊娠中絶、性病。なんとかしたいのに、性教育がスタートしない、学校は動いてくれない。

### ○娘の一言から

- ・娘：小学校6年生 「今日も来られないよね」と、参観日の朝に玄関での言葉。 → 私は何をしてきたんだろう
- ・学校の校長先生のところに行き、「学校の全ての役員をやらしてくれ」と。校長先生は喜んだ。「お母さんはこんな事も出来るんだよ」と見せたかった。
- ・五色台でのキャンプの準備をしないとイケない。私は何も出来なかった。レクレーション研修を受講。
- ・レクレーション研修で出会った高校生2年生。「看護師さんは注射をしている。助産師さんは病院で何をしような」といわれ、「赤ちゃんが産まれてくるときに、一番最初に赤ちゃんが見る顔は、助産師や」と。
- ・全員が私の部屋に集まっていた。私が**命の話**をしていたから。生きる、死ぬ、そんな現場にいた話をしてきたから。

### ○講演を始めたが

- ・講演をしようと しかし依頼がなかった。 → 私の話がドギツイから
- ・10代に中絶が多い県なら、いろいろな問題があるはず。「性教育ってなあに」と聞く。「今日はSEXの話が聞ける」なぜ笑うの、なぜ下を向くの。**あなたたちが生まれたのは、ご両親のSEXがあったからだよ。**
- ・あの講演で一番に笑ったのは僕でした。**性教育はSEXの教育ではない、性は生きる話である。そこにSEXがある。**
- ・**愛するとは、相手を思うこと、相手を大事にすること。**中学生同士でSEXする事は、病気、妊娠、子育ての責任がとれるか。
- ・人を愛するとは相手を大事にすること。 ← 子供たちはわかる あの子が好きだから、宝石箱に入れてそっとしておきたい
- ・大人になっていく間には、大好きな人を抱きしめたい、大好きな人に抱きしめてもらいたいと思いつつながら成長し、責任を果たせるようになって大好きな人を抱きしめ、SEXをして欲しい。

### ○本音でしゃべれば本音が帰ってくる

- ・山本さんの話を聞いて「これまでは女をとっかえひっかえしていたけれど、これからは一人にします」と、本音で返してくれる。
- ・エイズが問題になったとき：コンドームの話をしなればと思うが、学校からは辞めてくれと言われる。「私は、みんなに死んで欲しくないからしゃべる」と、次からこの学校からは講演に呼んでくれないだろうが、話す。

### ○屋島での出会い

- ・74歳のおっちゃん：昔アスベストの工場があったの知っているか。私らはそこで働いていたが、「マスクをしろ」とは誰も言わなかった。
- ・アスベストの着いた俺の作業着を洗濯してくれていた妻が、先に死んだ。
- ・そのおっちゃんも入院し、「**知らんと言うことは怖いことぞ。**誰もマスクをしろと教えてくれなかった」。一週間後に亡くなった。

### ○学校で言いたいこと

- ・私は、性感染症を見てきている、中絶を見てきている。

- ・「何で俺を生んだ」と言っている人がいるでしょう。そう言いたくなる親もいるじゃろう。子育てをじいちゃん、ばあちゃんにまかせきり、離婚をして・・・ → **父さんが母さんを愛したから、君がいるんだよ**
- ・親にもいろいろなことが起きる。が、「この世に一人も要らない命はない」。
- ・子供たちは「親に感謝」との感想文。

○中学2年生の感想文「こんな親でも感謝せないかんですか」

- ・殴られ、ご飯も食べさせてもらえず、パンを盗み、施設に入れられ。薬やらされ、万引きをやらされた子供たちが入っている施設で講演。
- ・苦しんでいる子供がいることを知った。私のこんな講演はだめだと思った。
- ・学校には一度しか講演に行かない。しかし、中学校と高校では、子どもたちの聞いた受け止め方が違う。
- ・「子供たちが山本さんの話をもう一度聞きたい」と言っている。再度の講演に行った。
- ・20名全員に頭を下げました。「あなたたちを大切に育ててくれた親なら感謝すればええ。そうではない親なら、その親を捨て、その親を越えてください」と。
- ・著書「いのちの応援団」 ← 虐待を受けた子供たちの話

○誰も親を捨てない

- ・子育ては大変。あなた方がどんなに子供に冷たく接しても、子供たちは親が好きなんよ。
- ・産んでくれたことに感謝しても、虐待は絶対だめ。親は変えられないので、あなた方が変わちなさい。 → でないと、その子供たちがまた子供を虐待し、殺してしまうかもしれない。
- ・感想文で「**要らない命は無いという言葉に自信ができました。生きようと思います**」。

○今を大切に生きろ

- ・お坊さんから寺で話をしてくれと。老人の前で話をしてどうすると思ったが。お坊さんが、あなたは「**今を大切に生きろ**」と言った。大切に生きるのは年寄りも同じこと。
- ・「(SEXを)一週間に一回やりよるか」
- ・85歳の杖をついているおじいちゃん。「わしらは枯れとると思われとる。エッチな話をすると、“淫乱”と言われる。山本さんはSEXをせえと言ってくれた」
- ・一時期はお寺ばかり講演に行っていた。

○NHKドキュメンタリー

- ・アスベストのおっちゃん、・・・
- ・バッシング 「女が大きな口をあけて、“SEXをしろ”と言うのか」「結婚しない人生がある、赤ちゃんを産まない人生がある」と。
- ・病院へのいたずら電話。病院を辞めるか、講演を辞めるかしなければと思った。
- ・君は「**いのちの応援団**」だね ← テレビを見た人からの手紙
- ・全国から、年間250回の講演依頼。地元からは講演依頼がない。地元の子供たちに話したかった。
- ・サンプラザ中野さんと、〇〇さんと講演するようになったが・・・

○いのちの応援舎

- ・助産師の真鍋さんから「助産院をやらへんか」との呼びかけ。助産師が二人いると助産院をや

れる。

- ・たくさんの留守番電話とFAXを見て、夫が仕事を辞めて手伝おうか。ヘルパーの勉強を始めた。老人介護施設を作りたいと言い出した。
- ・助産院と介護施設を組み合わせた「いのちの応援舎」を設立。
- ・昔、大家族の頃には、子供の虐待はなかった、介護の問題もなかった。
- ・複合施設「赤ちゃんの声が聞こえ、子供たちが居て、おばあちゃん、おじいちゃんがいる施設を建てたい」と夢を語った。お金を貸してもらえると思っていたが、銀行は融資を渋った。
- ・全国に私のファン、応援団が居ます。お金を貸してくれそうな人100人をリストアップ。
- ・私の夢を100万円で買ってください。5年で返します。利子は夢。
- ・アスベストのおっちゃん、84歳の助産師さん、看護協会の先輩看護師さん、・・・がお金を貸してくれた。
- ・5年で1億円返した。栄養士を雇う代わりに私でやり、講演会からもトンボ帰りで運営の仕事を自分でやった。節約のために。
- ・いのちの応援舎の駐車場がいつも車でいっぱいなのを見たのか、銀行が融資をすと言ってきました。
- ・しかし、頸椎狭窄、腰椎狭窄で足が動かなくなりました。助産の姿勢がきついのです。体が悲鳴を上げました。 → **こどもたちに命の大切さを伝えることが私の最後の仕事だ**

#### ○いのち咲かせたい

- ・年をとるに従って命が縮んでいく。いじめられたからと飛び降りる。
  - ・いじめなんて絶対に無くならん。学校だけでなく、職場でもいじめがある。お父さん、お母さんは、いじめを受けながらも、あんたらのために頑張っている。
  - ・飛び降りても世の中は変わらん。人に「助けて」と言いなさい。何とかしようと友達と考えなさい。生きるとはどういう事かを考えなさい。
  - ・いのちを咲かせたいと思いながら生きていくことが大切。
- ・愛媛県立図書館で「いのち咲かせたい」の本を見たNHKの記者が、ドキュメンタリーにしたい。 ← これが人との出会い

#### ○一番伝えたいこと

- ・子育て中のお母さんが一番大切。爺、婆はそんな子育てをしている若いお母さんを助けてください。
- ・「この子がいなければ」と思うこともある。しかし、まわりからは「頑張らないかん」と言われることがストレス、いじめに。
- ・しんどいときには「しんどい」と、「助けて」と言いなさい。
- ・昔は家事も子育ても大変だった。家事はどんどん自動化になったが、子育ては昔のまま。変わったと言えば紙オムツになったことぐらい。
- ・「家事が楽になったのだから、子育てぐらいちゃんとやりなさい」とのまわりの視線。

#### ○ことば集

「この子さえいなければ」と 思うこともある  
でもあんたは この子を手放せなかった  
だからあんたは この子の親なんだ

## だからこの子は あんたを追いかける

すべての命は望まれて産まれてきた

### ○助産師としてお母さんたちに言いたい3つのこと

#### ①赤ちゃんにおっぱいをあげている写真を撮っておいてください。

- ・中学2年生で反抗期の子ども:おっぱいをあげている写真を拡大して息子の部屋に張りました。それから私の話を聞くようになりました。
- ・離婚して、父親のところでは子供が生活するようになったとき、お母さんがどうやって育ててくれたかを写真で見せてあげられる。

#### ②母子手帳をきちっと記入してください。親子をつなぐ大切なもの。

- ・夫婦関係は切れても、親子関係は切れない。
- ・3女の私 長女は母子手帳をきちり書いてくれている。次女は少しだけれど書いてくれている。私の母子手帳は書いてくれていない。写真も少ない。

#### ③子供は抱きしめて

- ・抱きしめられていない子供はいろいろな事件を起こしている。
- ・北海道 援助交際をしている女の子:「男の人は性行為をする前は優しい言葉をかけてくれて、抱きしめてくれる。あたしは抱きしめられたくて行くの」
- ・「何を言いよるんな、あんたには親がいるやろ。親に抱きしめてもらいな」と私が言うと、「私は親に抱きしめられた事ありません」と。

### ○看護学校での講演

- ・SEXがいやらしいと思う人に、おじいちゃん、おばあちゃんの介護、看護が出来るか。
- ・命の暖かさを伝えるのは、お母さん、お父さんの暖かさを伝えること、抱きしめること。
- ・中学2年のヤンキーの中絶をした子:今産まれたばかりの子供を抱かせ、「赤ちゃんって、あったかいね」との言葉。 → 命は暖かい、死んだら冷たくなる。死んだら二度と帰らない。
- ・じいちゃん、ばあちゃんと話すときは、どこかを触れておいて、暖かさを伝えて。
- ・中学3年生まで抱きしめなさい。子どもは「するなあ」と言うけれど、うれしそう。
- ・“抱けない親”に抱けとはどういうことか。 ← 子育てでしんどい時にも、どこかで抱いてください
- ・今から10年前、施設を立ち上げる前はたたかれました。
- ・やってみないで辞めることはだめ、やってみてだめなら元に返るだけ。
- ・夢を持っていくこと。夢に向かって、自分にあわないことがある、方向転換すればええ。次の夢に向かっていけばいい。

### ○自慢話 賞

- ・家族計画協会会長賞、看護技術者対策議員連盟表彰、厚生労働大臣賞、香川県知事賞、保健文化賞、女性のチャレンジ賞 など受賞
- ・保険文化賞:全国で6名、ドクターばかり 皇居に来いと言われイヤだった。服が無いから行かない。

- ・中学生に話すとき、白いブラウスでは子どもたちが話を聞かない。金髪に染め、赤にヒョウ柄のスーツ。子どもたちを無視するから、話を聞かない。
- ・皇居に行くと携帯をとられ、注意の説明を聞く。「この石、香川県の由良山の石です」など。
- ・天皇陛下からお言葉 「よく頑張りましたね」「今後も頑張ってくださいね」
- ・チャレンジ賞 総理大臣官邸に行った 「30人の代表で謝辞を述べろ、3分でしゃべれるように原稿を」とのオーダー。
- ・「子どもたちは、思春期にはあんな格好をしたいと思うのです。そんなことを知ってほしくて、今日はこの格好できました。私の性教育はSEXの教育で、命の教育で、ちんちんの話ではありません」と。
- ・だめだめと言うだけでなく、頑張ったら認められることがある。


### ○最後に

- ・こんなたくさんの方に来ていただいて、出会いをいただきました。
- ・生きることが出来ても、認知症が出たら出来ません、歩けなくなったら出来ません。10人ほどでも是非呼んでいただけたら。出会いをください。
- ・愛し合った二人にとって、性、SEXは自分が生きていることを実感できる素晴らしいことです。今を大切に生きてください。

—以上—

活動紹介講座Ⅱ イクメン、イクジイに届け!

開催日時: 平成28年9月22日(木)10:30~12:30  
場 所: 健康ステーション大会議室(瓦町FLAG3階)  
対 象: 市民活動団体関係者・地域コミュニティ関係者  
興味のある方  
講 師: NPO法人いのちの応援舎 山本文子さん  
定 員: 10名(先着順)  
受 講 料: 無料  
申込締切: 平成28年9月15日(木)  
※申し込み希望の方は平成28年9月8日(木)までにお申し込みください。  
(先着20名)



いのち咲かせたい

「いのちってあったかい...」  
初めて赤ちゃんを抱っこした  
高校生が  
思わず口にしたこの言葉  
生れる前から  
すこやかな未来まで

「いのちをつなぐこと」  
「いのちを紡ぐこと」  
を繰り返している  
助産師 山本文子さん  
その「言葉」にふれてみませんか

問合せ・申込み先: 高松市市民活動センター  
〒764-0004 高松市常盤町一丁目3-1  
瓦町FLAG3階  
TEL: 087-812-7506 / FAX: 087-812-7537  
E-mail: info@itc-tokamoto.net  
HP: <http://www.itc-tokamoto.net/>

